

全国から創意工夫にあふれる、多彩な「逸品」が勢揃い！ 「ストップ温暖化『一村一品』大作戦」全国大会2010の出場団体をピックアップ！



「ストップ温暖化『一村一品』大作戦」（主催：環境省、大会事務局：全国地球温暖化防止活動推進センター）では、この9月から12月にかけて全国47都道府県ごとに地区大会を開催、そしてこのほど、各地区の創意工夫にあふれた取り組みの中から、それぞれの出場団体が出揃いました。本年度の傾向としては、学校や一般企業の取り組みが多く選出され、地方自治体、地域団体・NPOなどの代表とともに、とにかく選出された方たちのバランスが絶妙で、その取り組み内容も、省エネ活動からバイオマス、新エネルギーへのチャレンジなど多彩な逸品ばかり！今回はその中から、いくつかの取り組みをご紹介しますと思います。

【滋賀県代表】

10月23日、県内の長浜バイオ大学の講堂をお借りして実施した県大会『CO₂ダイエットコンテスト in おうみ』。20数件の取り組みの中から、東近江市立能登川南小学校の「学校が発信し、家庭も地域も、みんなでエコ活動」が栄えあるグランプリに選ばれました。

この活動の特徴は、とにかく子供たちが自主的に行ってきた取り組みに、親や市内の高校や自治体、企業などが賛同して協力し、持続可能な活動としている点。まさに子供たち中心の活動は、7年ほど前から行なわれており、その取り組み内容も実に多岐にわたります。

水道や電気の使用量チェックやゴミの点検、川の水質調査、手作りの雨水タンクでの花の水やり、荒廃した竹藪の森林再生プロジェクトなどなど。これらの取り組みは、児童で構成する「エコスクール委員会」を中心として各家庭や周辺地域の取り組みへと広がりを見せています。

県大会当日は、インフルエンザなどの影響で子供たちは出席できなかったようですが、来年の2月には、活動の中心となっている子供たちが、元気に発表してくれる予定です！

【山形県代表】

県内25の市から、66件もの取り組みが集まった山形県。そのうちの10件が、10月31日の地区大会に進み、その中から山形県立東根工業高等学校の「ものづくりプロジェクト～手作り太陽電池パネルから広がる世界のCO₂削減～」が見事、グランプリに輝きました。

同高校では校内に「ものづくり委員会」を設置し、さまざまな活動を行っています。そしてその委員会が中心となって、昨年、全校生による手作り太陽電池パネルに取り組み、100枚の太陽電池パネル（3.2kW）を完成させ、駐輪場の照明や学校の電力の一部として使用されています。

そしてそこで得た技術を活かし、東工生徒会「光プロジェクト」を発足。このプロジェクトチームは今年の8月、モンゴル・ウランバートル市にある新モンゴル高校にうかがい、そこで「太陽光発電電化システム」を設置するとともに、現地の高校生に対して技術指導を行ってきたのだそうです。

独自の省エネルギーにむけた取り組みと、その技術を活かした国際貢献活動。今後も継続的に展開する予定なのだそうです。



写真④左：滋賀県東近江市立能登川南小学校の「里山森林再生プロジェクト」。右：同小学校の「エコスクール委員会」の活動のもよう。
 写真⑤左より：山形県立東根工業高校の手作り太陽光パネルの設置風景、製作のもよう、モンゴル訪問の際の記念写真

全国からの『一村一品』代表便りが続々と集まっています！

【鳥取県代表】

鳥取県の代表に選ばれたのは、北栄町の「風が運ぶ贈り物〜小さな町に新エネ・省エネを詰め込んで〜」。
北栄町の海岸沿いに並ぶ北条砂丘風力発電所は、自治体直営の大型風力発電施設としては、国内最大規模の施設です(1500kW×9基)。この風力発電所の開発を契機に、北栄町の地球温暖化防止への取り組みは本格化し、年々多くの施策を展開するようになりました。現在では、婦人会リサイクル活動の支援、保育所への太陽光発電設置(写真④⑤)北栄版菜の花プロジェクトなど、41もの施策を展開しています。



【茨城県代表】

今年、11月3日に行われた県大会で最優秀賞に輝いたのは、農業高校の女子生徒による取り組みでした。茨城県立水戸農業高校の5名の女子生徒が展開する「夢見る百姓隊〜めざせCO₂ 6%削減〜」は、高校からのCO₂排出量を調査することから始まったもの。
CO₂排出量削減を目指して、校内で使用する化石燃料の見直しやゴミの減量&リサイクル活動、マイバック運動など多岐にわたる施策を展開。また、さすが農業高校！校内から出る生ゴミを堆肥化し、校内の畑で活用して野菜を栽培・収穫。寮生の食材として提供する(写真⑥中央)「地産地消」にも取り組むと同時に、食材中に含有する発ガン性物質低減の研究も行っています。



【佐賀県代表】

佐賀県の代表は、特定非営利活動法人「かいろう基山」。主に定年を迎えた高齢者の方たちが実施する、地域社会に貢献する活動です。その事業内容は、森林を浸食する竹材の駆逐をメインとする里山保全活動(写真⑦⑧)、生物多様性保全機能、水源涵養機能をはじめとする、森林の持つ公益性を向上させる活動です。また伐採した竹は、竹炭や竹酢液、竹製品へと再生し、さまざまところで活用しながら、世代を超えた交流、地域の交流などに役立てています。



【宮城県代表】

宮城県から、総数76件の取り組みの代表として選出されたのは、株式会社ウジェスパー/株式会社ウジェクリーンサービスによる「エコガニック with ノーマライゼーション」。
これは、エコとオーガニックを地域の方とともに行う過程の中で、未来に向かってともに笑顔で生きるという意味だそうです。
取り組みは、スーパーの営業活動を通じて、連日排出される食品残さをコンポスト化して、肥料に再利用してお米や野菜をつくとともに、それを原料にお酒などの加工品を展開する中で、障害者、高齢者の方々の雇用や、地域の皆さんを巻き込んでの共存共栄を模索していくというもの。県センターの提唱する「エコでスマイル(エコスマ)」に、まさにぴったりな多面的に工夫をこらした活動が、いよいよ東京に進出です。

全国からの「一村一品」便り ③

ここでは、「ストップ温暖化『一村一品』大作戦全国大会2010」にむけた、その他の都道府県の状況をご紹介します。

●東京都代表

11月15日、東京・新宿御苑で行われた「ライフスタイル・フォーラム」。その中で、東京都の代表を決定する『とうきょうエココレクション2009』が開催され、書類選考で選ばれた15の取り組みが集合しました。

東京都大会に参加するのは、学校や企業、自治体、NPOなどさまざま。3時間におよぶ熱のこもったプレゼンテーションが展開され、とうきょうエコレ大賞(東京都代表)には「TOKYO油田2017」を展開する株式会社ユーズが選ばれました。

もともと油の精製などを行っている同社は、店舗や家庭からでる使用済みの天ぷら油を、都内のいくつかのステーションで回収し、それを再資源化し、車や発電機などのDFV(Vegetable Diesel Fuel)として活用したり、ハンドソープや塗料として使用したりしています。(写真は、株式会社ユーズの使用済み油の回収車。こちらもVDFを



燃料として走る車です)

●京都府代表

第1回、2回の全国大会で2年連続最優秀賞に輝いている京都府。ここ2年間は実は森林が多いという土地柄から、間伐材を再生利用する取り組みが続いていましたが、12月6日に行われた決勝大会で、見事代表に選ばれたのは、長岡中央商店街振興組合。

そしてその気になる取り組みとは、自作のLEDランプを使った商店街(アゼリア通り)のCO₂削減の取り組みなのだとか。その内容に注目です！

●そのほかの代表

青森県の代表は、青森県立柏木農業高等学校の「真夏を冷やせ！ホワイトブロック」。これまで埋め立てに利用させてきた凝灰石をガーデニングに使おうという、こちらも取り組みとしては初となりそうなテーマです。

さらに島根県センターからは、日本海の隠岐に位置する小島の取り組み。「海土町教育委員会」が持続可能な島を目指す環境への取り組みを提案します。

とにかく！どちらの取り組みを見ても、どれも十人十色といえるほどバラエティに富んだものばかり！

全国大会は来年2月13日、14日の両日、東京・竹芝のニューピアホールで開催します！

ご期待下さい！ (編集/すぎま)